

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4111411361		
法人名	医療法人 あおぞら		
事業所名	グループホーム あおぞら		
所在地	佐賀県唐津市浜玉町浜崎798番地1 (電 話) 0955-56-2396		
評価機関名	社団法人佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目1224-2		
訪問調査日	平成 19 年 5 月 21 日	評価確定日	平成 19 年 7 月 13 日

【情報提供票より】(平成 19 年 5 月 7 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 9 人	

(2)建物概要

建物構造	木造
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無) 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,300 円	

(4)利用者の概要(5 月 21 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.6 歳	最低 72 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 あおぞら胃腸科 ・ 井上歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

『1. ゆったりと、楽しい時間の共有 2. 個人の尊重、そのひとらしく 3. 残された力で、暮らしのあらゆる場面で喜びと自信を！ 4. 家庭とのつながり、地域との交流を大切にします』という理念を掲げ、母体施設と共に、地域の医療福祉の拠点となるべく努力されていた。また、定期的に多方面にわたる学習会が母体施設で開催され、さらに近隣の介護施設の勉強会や懇親会にも参加する機会が設けられるなど、サービスの質の向上に向けて非常に力を入れられていた。今後、地域との交流をますます図られ、地域の方々や家族のフォロー・協力を受けながら、外出の安全を確保し、地域行事へも積極的に参加されることが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目①	外部評価では、前回の結果を踏まえ、改善が必要な部分には全体で話し合いを持ちながら、前向きに取り組まれていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を日々のサービスを見直す機会ととらえ、施設長はじめ全職員で取り組まれていた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 日常の介護サービスの内容や、行事の報告等が行なわれると共に、そこでの意見をサービスの質の向上に活かされていた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) あおぞら新聞を発行し、ホームの行事や日々の暮らしの報告、職員の紹介などがなされ、健康面で変化があった場合は、随時電話での報告がなされていた。また、意見箱の設置や、面会時など折に触れての声かけにて家族の意見の収集に努め、ホームの運営に反映されていた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム内での催し物には近隣の方々の参加を呼びかけられたり、地域の方との交流を図るきっかけ作りに努められていた。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『1. ゆったりと、楽しい時間の共有 2. 個人の尊重、そのひとらしく 3. 残された力で、暮らしのあらゆる場面で喜びと自信を！ 4. 家庭とのつながり、地域との交流を大切にします』という理念を掲げ、母体施設と共に、地域の医療福祉の拠点となるべく努力されていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人全体及びグループホーム内の会議の場において確認し、理念の共有を図ると共に、施設長を中心に日々理念の実現に努められていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム内での催し物には近隣の方々の参加を呼びかけられたり、地域の方との交流を図るきっかけ作りに努められていた。一方、地域行事への参加については、職員の配置・安全面等の問題があるため、ホーム側からの積極的な参加が十分にできていなかった。	○	地域の方々や家族の協力を受けながら、外出の安全を確保し、地域行事へも積極的に参加出来るような体制作りが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を日々のサービスを見直す機会ととらえ、施設長はじめ全職員で取り組まれていた。また外部評価では、前回の結果を踏まえ、改善が必要な部分には全体で話し合いながら、前向きに取り組まれていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催され、日常の介護サービスの内容や、行事の報告等が行なわれると共に、地域の行事等の情報収集が行われていた。また、そこでの意見をサービスの質の向上に活かされていた。	○	区長はじめ地域住民の方など、様々な方々のさらなる参加を呼びかけ、地域との関係作りに努められる事が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議・書類の提出時・問い合わせの際などに市町村の担当者と連携がとられていた。	○	行事等、折にふれて市町村の担当者も参加してもらえるように密に連絡を取りあいながら、さらにサービスの質の向上に努められる事を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月末には金銭出納の報告を文書で行い、あおぞら新聞を発行し、ホームの行事や日々の暮らしの報告、職員の紹介などがなされていた。また、健康面で変化があった場合は、随時電話での報告がなされていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、面会時など折に触れての声かけにて、家族の意見の収集に努め、ホームの運営に反映されていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に関しては、馴染みの関係が崩れないよう十分な配慮の下で行なわれていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修についてはその都度紹介し、資格取得とスキルの向上にむけ、研修の機会が設けられていた。また母体施設と共に、福祉・医療をはじめ様々な分野から講師を招き、内部の研修会が定期的開催されていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護施設の勉強会や懇親会にも参加する機会が設けられ、相互にサービスの質の向上に向けての連携が図られていた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があればお試し利用なども可能であり、ホームの雰囲気や他の入居者の方々に徐々に慣れていただけるような体制ができていた。	○	現実には、入居が決定してからの最終確認で訪れる方が多いとの事。入居者の方が穏やかな生活にスムーズに入っていくためにも、事前の見学・お試しの利用を積極的に進めていかれることが期待される。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	菜園での野菜の手入れなど、入居者の方から学ぶ事も多く、入居者同士、入居者と職員といった関係の中で、共に支えあう関係作りに努められていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報も得ながら、日々の関わりの中で入居者本人が望む暮らしの把握に努め、これまでの暮らしを尊重した支援となるように努められていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりのアセスメントを行い、介護支援専門員を中心に、職員、家族や本人と協議の上介護計画が作成されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間を明確にし、入居者の状態把握に努め、それを踏まえて介護計画の見直しが行なわれていた。	○	本人や家族の意見を事前に伺い、介護計画作成に反映されているが、記録を残し、ケース検討会等の議事録等も整理される事が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・銀行・役所等への外出支援など、本人や家族の希望、状況によって柔軟に対応されていた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは日々綿密に連絡をとられ、関係医療機関とも連携を図りながら、往診・通院の支援が行なわれていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する指針を定め、同意書の中で細かく対応を明示されていた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に問題意識を持ちながら、入居者のプライバシーを損ねる事がないよう、配慮されていた。また、個人情報についても、契約時に同意書をとられ、その取り扱いには十分に留意し対応されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	精神的に不穏になられる方には、その方のペースを第一とし、入居者一人ひとりに寄り添った支援がなされていた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りなど、食事の準備の段階から後片付けまで入居者と職員と一緒に食事を楽しんでいた。また、週1回はリクエストメニューが設けられ、入居者の方のリクエストに応えられていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望にあわせて入浴できるよう、職員のシフトを考えて対応されていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯や掃除、園芸など入居者の状態に応じ、ホーム内での役割りを持っていただくことで、張りのある満足感が感じられる暮らしを支援されていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やドライブ、買い物など入居者の希望や状態に応じて外出する機会が設けられていた。また、近隣の神社への散歩、ホームに面した駐車場での日向ぼっこなども、常時行なわれていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行なわれておらず、入居者の自由な暮らしを支援されていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練が実施されると共に、常に避難経路の確認や、非常口付近の整理整頓が行なわれていた。	○	ホーム内での訓練は行なわれているが、近隣の方々や地元消防団等からも協力が得られるよう、日頃からの協力関係作りが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、栄養バランスや量にも配慮され、刻みの必要な方にも対応されていた。水分量は特に気をつけられ、病状に応じた摂取が行なわれていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天窓からの自然光が入り明るく、中央にはゆったりとしたソファが置かれ、自然とくつろげるようなスペースが確保されていた。南側には菜園もあり、季節の花や野菜が栽培され、リビングから眺められるようになっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品が持ち込まれたり、家族の写真が飾られたり、一人ひとりが安心して居心地良く暮らせるよう配慮されていた。		